

みんなで ともに 乗り越えよう

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。その中で、町がどのような取り組みをしているのかをお知らせします。

請戸川（室原川）・高瀬川種苗モニタリング数値（第2回）

室原川・高瀬川漁業協同組合では、福島第一原子力発電所事故による河川種苗の放射能汚染の現状把握のため、反復・継続してモニタリングを実施しています。

■測定結果 平成25年7月・8月分 (単位:ベクレル/kg)

種苗名	場 所	7月	8月
ヤマメ	(請戸川) 大字津島字大高木	530	採捕無
	(請戸川) 大字下津島字小塚	1,290	1,190
	(請戸川) 大字赤字木字白追(石井商店西支流)	1,560	5,000
アユ	(請戸川) 大字権現堂字北順礼川原掃部関頭首工(浪江高校南側)	2,900	1,750
	(高瀬川) 大字井手字大高倉鷹ノ巣(やすらぎ荘入口)	採捕無	179
	(高瀬川) 大字小丸字立石鱒平橋(めがね橋)	116	100

室原川・高瀬川漁業協同組合調べ
※いずれも種苗全部(頭・内臓・筋肉・皮)での計測
※分析は山形県理研分析センターによる数値結果

☎室原川・高瀬川漁業協同組合
☎024(575)1636

避難区域内の ゲルマニウム半導体検査結果

町が福島県に依頼し実施した避難区域内の取水場のゲルマニウム半導体検査結果をお知らせします。

区 分	採取月日	採 取 地	検査結果
原 水	2月25日	小野田取水場	不検出
		苧野取水場	不検出
		谷津田取水場	不検出
		大堀取水場	不検出

ゲルマニウム半導体検出器は、ゲルマニウムが持つ半導体(温度などの条件変化によって電気を通す率が変化する物質のこと)としての性質を利用して、水や食品などに含まれる微量の放射線(γ線)を測定し、放射性物質の種類やその量を測定する分析機器です。

☎復旧事業課上下水道係 ☎0240(34)0234

食品の放射能簡易分析結果

町では、食品中の放射性物質を測る機器を配備し、さまざまな食品等の安全安心のため放射性物質測定を実施しています。

■2月の分析結果(上竹倉庫受付分)

区 分	検体数	検出された検体数	品 名
野 菜	4	0	ゼンマイ
山菜、きのこ類	5	1	
米(新米)	4	0	干し柿
魚	0	0	
その他	7	1	
水(井戸水・湧水等)	3	0	
合 計	23	2	

■2月の分析結果(浪江町役場本庁舎受付分)

区 分	検体数	検出された検体数	品 名
野 菜	0	0	
山菜、きのこ類	0	0	
米(新米)	0	0	猪肉
魚	0	0	
その他	1	1	
水(井戸水・湧水等)	0	0	
合 計	1	1	

食品衛生法における基準値(セシウム134、セシウム137の合算値)
●一般食品……100ベクレル/Kg ●飲用水……10ベクレル/Kg
●牛乳……50ベクレル/Kg ●乳幼児食品……50ベクレル/Kg

※浪江町内の食品は避難指示解除準備区域および居住制限区域のものを受け付けています。

食品の簡易測定は、随時受付しています。ご希望の方は、お問い合わせください。

☎・☎上竹倉庫事務所 ☎0243(23)4774

避難区域内の水の汚染状況検査結果

町で実施した避難区域内の水等の汚染状況検査結果をお知らせします。

区 分	検査月日	採 取 地	検査結果	
井 戸 水	2月4日	権 現 堂	不検出	
		川 添	不検出	
		2月5日	室 原	不検出
		2月10日	室 原	不検出
河川流水	2月6日	やな場付近	不検出	
底 質	2月5日	やな場付近	12,800ベクレル/kg	
海 水	2月5日	請戸漁港	不検出	

☎生活支援課生活安全係 ☎0243(62)0151

町の農業再生に向けて

町内でのバイオマス作物 実証栽培の報告

広報なみえ昨年11月号で紹介しました、弘前大学・東京大学の協力を得て行ったバイオマス作物の実証栽培について、ご報告します。

なお、次年度以降も引き続き継続していく予定で、今年度の実証で得られた詳細な結果は、町ホームページに掲載しています。

ネピアグラスによる 土中の放射性セシウム 除去とエタノール化

■協力大学 弘前大学農学生命科学部
■実施場所 浪江町田尻地区(居住制限区域)の水田と牧草地
■実施期間 平成25年5月～10月
■試験概要 栽培密度による生育の比較、放射性セシウム吸収除去効率の確認など
■結果概要 密植することで茎葉部の乾物収量が高くなること、ネピアグラスの除染効果がとても高いこと(除染率0.7%)。効果がある

とされるソルガムの6～23倍、アマランサスの4倍ほど高い水準)を確認。ネピアグラスの栽培は、農地保全と除染に有効という知見が得られた。また、ネピアグラスは、除染後にバイオ燃料の原料としての利用可能性が高く、バイオ燃料にすることで減量化が可能な除染植物であると考えられる。現在、除染後のネピアグラス茎葉部からセシウムを取り除き、バイオエタノールの生成・利用可能性を調べているところである。平成26年度も同じ場所でネピアグラスを栽培し、さらに除染率を上げていく実証栽培試験を行う予定である。



ネピアグラス、牧草地、平成25年10月撮影

エريانサスとジャイ アントミスカンサスの ペレット化

■協力大学 東京大学大学院農学生命科学研究科
■実施場所 浪江町田尻地区(居住制限区域)の水田
■実施期間 平成25年6月～12月
■試験概要 浪江町の気候と被災水田の土壌条件に適したエネルギー植物種とその栽培システムの検証、作物の放射性セシウムの吸収量の確認など
■結果概要 試験栽培した多年生エネルギー

グー植物のジャイアントミスカンサスとエريانサスの初年目(平成25年)の生育は県内他の市町村に比べて劣ったが、これは、植え付け時期の遅れ、梅雨の降水不足、根が十分にはる前の夏季の干ばつや、イノシシによる被害のためであって、浪江町での栽培については問題ないレベル。2年目以降は特にジャイアントミスカンサスの生育が良好になることが期待される。エネルギー植物に吸収された放射性セシウム濃度は、エريانサスで平均267Bq/kg、ジャイアントミスカンサスで392Bq/kgであった。同一ほ場で採取したセイタカアワダチソウやヨモギなどの雑草の吸収レベルが800～1,300Bq/kgで

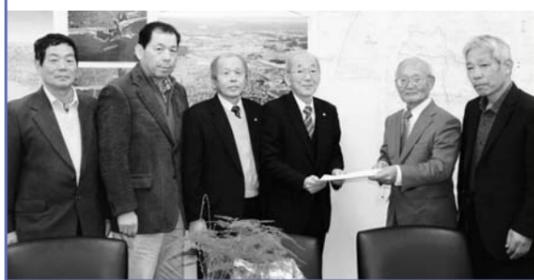


エريانサス、水田、平成25年9月撮影

あったのに比較して低いことから、ペレット化してエネルギー利用するのに適した作物であると言える。一定の収量も得られ、農地を保全しながらエネルギー原料を得られる可能性が高いことが確認できた。

浪江町の農業・農地を考える会 からの要望書

2月27日、農業者有志で構成された「浪江町の農業・農地を考える会」から、馬場町長に、「農地保全に関する要望書」が提出されました。要望書には、これまで長い年月をかけて作ってきた大切な農地に対する農業者の想いが込められており、町としてもこれを真剣に受けとめ、具体的な施策の検討を行ってまいります。



会の紹介

私たちは、原発事故により環境汚染された農業生産現場を復旧し復興への道筋をつけるために、やる気のある人たちが知恵を出し合い、次世代へのつなぎ役として意見・要望を具申することを考え、昨年9月、「浪江町の農業・農地を考える会」を立ち上げました。本年1月までに4回の会合を重ね、これまで約90名の有志が参加しています。※会のこれまでの取り組み・検討内容は、浪江町ホームページでも紹介しています。

☎産業・賠償対策課産業再生係
☎0243(62)0167